

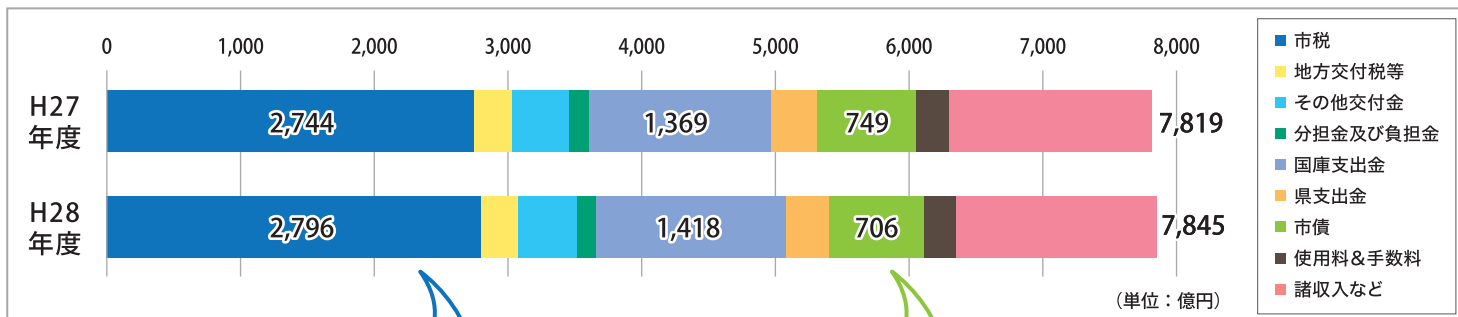
福岡市
平成28年度

一般会計予算の概要



歳入

市税収入は人口増と企業収益の改善、新增築家屋の影響による固定資産税の増などにより、平成27年度を上回る収入を見込んでいます。一方、市債については昨年度を下回る予算にとどめ、財政健全化をはかります。



◆ 市民税の収入増について

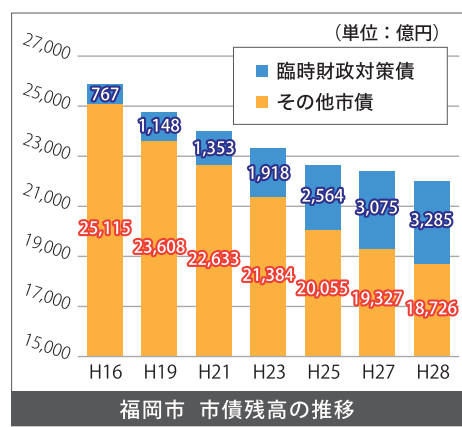
福岡市は、転入超過などにより人口増加が続いています。個人市民税については、納税義務者数の増加に伴う税収増を見込んでいます。法人市民税については、建設や不動産、金融など、市内での好調な業界の企業収益改善に伴う法人市民税の増収が見込まれていますが、この収益増は一部の法人に留まっているのが現状です。

市民税の収入増は、納税者の所得増や企業規模に関係なく法人全体の収益増に伴う収入増が見込めるよう、市民の所得を押し上げるための雇用環境の改善や中小企業対策等が必須であると指摘しました。

◆ 市債について

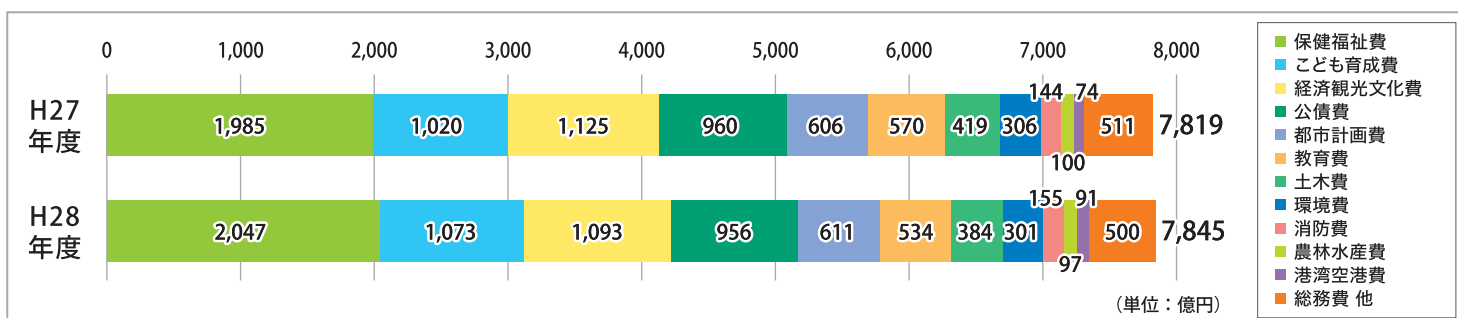
平成24年度に策定した行財政改革プランに基づき、市債の発行額の抑制と当初予算における市債発行額を上回る公債費(歳出)により、累計市債残高の着実な縮減につとめています。グラフの通り、平成16年度をピークに一般会計の累計市債残高は減少しています。

市民一人あたりの市債残高(本市起債分のみ)については、平成16年度185万円から平成28年度では125万円まで縮減する予定です。



歳出

昨年度に引き続き医療・介護関連の繰出金・負担金を含めた社会保障関係費が増加する中、一方で高齢者福祉などの充実に向けた保健福祉費の増額と、子育て環境の充実に向けた子ども育成費の増額を確保した予算配分としました。



H28年度「こんなところ」が変わります!

○ 子育て支援の充実

- ・待機児童の解消に向け、1,800人分の定員拡大をはかります。
- ・中央児童会館(あいくる)がリニューアルオープン! (H28年4月)

○ 教育環境の充実

- ・全中学校の普通教室に空調を整備 (H28年夏)

○ 健康増進施策の充実

- ・福祉バスへの助成拡大や、車両の貸し出し事業スタート
- ・40歳・50歳の特定健診受診の無料化 (国民健康保険)
- ・認知症、ロコモティブシンドローム予防施策の実施

○ 交通施策の充実

- ・家族で利用できる一日乗車券の新設や65歳以上の高齢者の外出促進に向けた乗車券など、地下鉄の企画乗車券の見直し (H28年10月予定)

○ 文化・芸術活動拠点の充実

- ・なみきスクエアに音楽・演劇演習場を設置
- ・福岡市美術館をH28年9月に閉館し、大規模改修・リニューアルをスタート

○ MICEで賑わうまちづくり

- ・世界の約140カ国から35,000人の参加が見込まれるライオンズクラブ国際大会の開催支援 (H28年6月)

○ 福岡市動植物園の改善

- ・エントランス部複合施設整備に着手 (H30年度完成予定)
- ・入園料の見直し (大人600円へ)

○ 市民サービスの向上

- ・市民センター、図書館などを有する「なみきスクエア」(千早駅前)がオープン (H28年6月)



福岡市議会通信 第34号(2016年 春号)

民進党

田中しんすけ

平成28年・春 新たな出会いの季節到来!

福岡市議会も新年度予算議会を終え、市民の暮らしを支える新たな施策もこれから動き出します。暮らしに関する様々なご意見やご相談について、引き続きお寄せください。

さて、田中しんすけは、今年度で福岡市議会議員として10年目を迎えます。これからも「素直に謙虚に」という初心を忘れず、これまで以上に地域に積極的に向かいみなさんの声を集めていきます!



地域からのご相談

その結果と進捗状況をお伝えいたします!

田中しんすけは、地域活動への参加や市政相談を通じて、生活道路や公園の整備、交通安全対策など、暮らしに密着した様々なご相談をお受けしています。今回は、地域にお住まいのみなさんからいただいたご相談のうち一部について、その結果と進捗状況についてご報告いたします!



高宮通りが、 明るく歩きやすくなります!

平尾地域に住むみなさんの生活を支える福岡筑紫野線(通称:高宮通り)。

近年、「夜間に暗い」「歩道が狭い」等のご意見を頂いていましたが、快適な歩行空間を実現するために、今年度から工区を南北の2つに分けて本格的な工事が始まります。

北エリア(平尾1交差点~平尾北交差点の240m)については、道路照明灯の新設がメイン。既存の5灯に加えて新たに7灯の照明灯が設置されます。南エリア(平尾北交差点~平尾交差点の290m)については、道路照明灯の追加工事に向けての測量・設計が行われます。



交通安全対策として、 ポールコーンが設置されます!

さて、こちらの相談は平尾1丁目の高架下交差点の交通環境に関するものです。

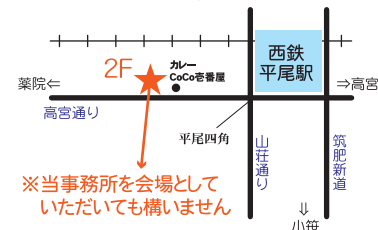
高架を挟んで南北にそれぞれ一方通行になっている道路なのですが、特に問題なのは北向きに進む道路。ここでは薬院方面に進む車と、高宮通りに出ようとする(東から西へ)車両との接触事故が頻発している箇所です。交通規制に関わることから、区役所・警察の双方との協議を重ねてきましたが、この度「停止線の引き直しを含めたポールコーンの設置」という対応が取られることになりました。今回の対応により、交通事故が減少することを願うばかりです。

社会 経済 政治 国際 地域

田中しんすけ 春の新企画
出前講座ははじめます!
☎ 521-3650

田中しんすけ 福岡市議会議員

当事務所ではこれまで商店街イベント「平尾まちゼミ」に講座を提供してきましたが、「色々な政策が聞けて面白い!」「もっと政治の話を聞きたい!」など好評をいただいていたところ。そこで、田中しんすけが講師としてみなさんのお住まいの地域に伺い、地方議員の取り組みや暮らしに役立つ情報などの説明を行います。3~4人程度お集まりいただければ、いつでもどこでも、ご要望があったテーマに沿って田中しんすけが講師を務めます。どうぞ、お気軽にご連絡ください!



田中慎介

昭和53年6月14日生(37歳)

西高宮小学校 卒業 1991年
西南学院中学校 卒業 1994年
筑紫丘高等学校 卒業 1997年

九州大学法学部 卒業 2001年
早稲田大学大学院 アクセンチュア(株) 修了 2004年
入社 2004年

福岡市議会議員1期 当選 2007年
福岡市議会議員2期 当選 2011年
福岡市議会議員3期 当選 2015年

田中しんすけ 検索



〒810-0014 福岡市中央区平尾2-3-21 2F TEL:092-521-3650 FAX:092-521-5221 E-mail:info@tanakashinsuke.jp

田中しんすけ市政相談所



〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1
福岡市庁舎議会棟 福岡市民クラブ議員控室
Tel:711-4736 Fax:732-4055
<http://fukuokashimin.jp/>

【平成28年度予算が成立】

3月25日の福岡市議会本会議において、平成28年度予算案が可決しました。

昨年未実施した「会派予算要望」に対し前進した施策もありますが、引き続き「基本政策」の実現に向けた政策提言ならびに要望を続けていくと同時に、平成28年度予算に対して、適正な執行が行われるよう注視していきます。

平成28年 第1回福岡市議会(2,3月定例会)開催

第1回定例会(2月18日～3月25日)が召集され、平成27年度補正予算案、ならびに平成28年度予算案のほか、条例の改正等45議案など、全112議案について審議しました。

▶ 平成28年度予算

※()内は前年度との比較

一般会計予算は7,845億円(+0.3%)で、特別会計・企業会計と合わせ、総額1兆8,839億円(-1.3%)となりました。市税収入は2,795億円(+51億円)で過去最高の見込みで、市債残高についても着実に縮減していく計画。

歳出については、社会保障関係費が増加している一方、こども育成費(+53億円)や保健福祉費(+62億円)の充実をはかっています。

TOPICS

子どもの医療費助成 対象拡大!

平成28年10月診療分から、子どもの通院医療費の助成内容が変わります。対象者が小学校6年生までに拡大し、3歳以上のお子様からは一部負担が発生します。



毎月10,000円の医療費が小学校卒業までかかると、負担はどうなる?

	<0歳～2歳>	<3歳～6歳>	<小学生>
現行制度	健康保険8割 (8,000円) 福岡市 (1,650円) 10,000円	健康保険8割 (8,000円) 福岡市 (1,650円) 10,000円	健康保険7割 (7,000円) 個人負担3割 (3,000円) 10,000円
改定後	健康保険8割 (8,000円) 福岡市 (1,650円) 10,000円 個人負担:なし	健康保険8割 (8,000円) 個人負担(600円) 福岡市 (1,100円) 10,000円 個人負担: +600円/月	健康保険7割 (7,000円) 個人負担(1,200円) 福岡市 (1,350円) 10,000円 個人負担: -1,800円/月
個人負担	○ 3,000円×12カ月×6年 = 216,000円	○ 600円×12カ月×4年=28,800円 ○ 1,200円×12カ月×6年=86,400円 計) 115,200円	
福岡市の助成	○ 1,650円×12カ月×7年 = 138,600円	○ 1,650円×12カ月×3年=59,400円 ○ 1,100円×12カ月×4年=52,800円 ○ 1,350円×12カ月×6年=97,200円 計) 209,400円	

地域・コミュニティを育て「人と資源が整う福岡(まち)」づくりが最優先!

代表質問[3月3日] 江藤 博美(西区)



二期目に入った高島市長は、昨年、天神一帯の高さ規制や容積率の緩和により大型再開発を促そうという“天神ビッグバン”構想を打ち出しました。今年は、ウォーターフロント地区再整備構想という、大型クルーズ船が二隻同時に接岸できる岸壁の整備や、大規模な国際会議やイベントの誘致が可能な施設ホテルを新たに整備するなど、博多港一帯の大規模整備事業を打ち上げました。

アジアの拠点都市を目指す「圧倒的福岡時代」という大層な掛け声ですが、その事業費を市民・議会に明らかにしてもらわなければ、市民は評価さえできません。生産年齢人口が確実に減少していく時代に入り、超・少子高齢化社会に対応できる地域社会・コミュニティの支援、福岡が持つ固有の資源の活用こそ優先施策ではないか。次代を担う人材育成システムを構築して福岡が持つ固有の資源を活用した「人と資源が整うまち福岡」という身の丈に合う自治体経営をめざすべきではないかと、市長に厳しく迫りました。

代表質問 POINT !!

福岡市民クラブ 会派の主張2016

平成28年度予算の審議に当たり、私たちは高島市政に対して厳しいチェックを行うとともに、会派が主張する「福岡市の目指すべき都市像」について、以下の三つの視点から様々な政策提案を行いました。

- 生活保障戦略…一人ひとりの命と幸せを大切にす社会の実現
- 成長戦略…新アジア時代の成長プラットフォームシティ福岡を目指す
- 地域主権戦略…市民が自ら発言し、議論し、決定する仕組みづくり

特に、本市の特性を踏まえた経済政策の在り方として、「人への投資」が将来にわたる成長を保证するものであり、「経済政策は市民のためにある」という理念をもって臨むべきであると主張しました。政策提言としては、子育て支援と子どもの貧困対策、地域で頑張る高齢者支援等の福祉施策、商店街支援や森林・林産業再生等の経済施策、少人数学級の拡大や市民性を育むシティズンシップ教育の導入等の教育施策について、新年度予算に反映させるよう求めました。

省エネ住宅助成制度の創設に大きく前進

補足質疑[3月7日] 栃木 義博(早良区)



昨年末パリで開催されたCOP21では、世界の気温上昇を2℃未満に抑え、今世紀後半の人間活動によるCO2など温室効果ガスの排出量をゼロにするため、わが国は2030年までに同ガスを2013年比26%削減で合意し、自治体も削減目標達成に向けた取組みが急務です。温暖化対策として、二重ガラス窓や壁などの断熱工法を採り入れた省エネ住宅改修への助成制度の創設を福岡市に要望。今回改めて市の考えを質したところ「省エネ住宅改修助成制度は効果的な施策であり、創設について検討していく」とする環境局長答弁を引き出し、同制度創設に向けて大きく前進させました。

この他、土砂災害警戒区域内の指定避難所の代替として地域集会所を避難所に指定するとともに、家屋等補強のための補助制度について検討を要請。また渋滞で目に余るクルーズ船観光バスの駐車場を急ぎ市有地で整備するよう強く求めました。

福岡市のこどもの貧困実態調査に期待!!

総会質疑[3月18日] 太田 英二(城南区)



福岡市は人口も増え、市税収入も2年連続の過去最高額が見込まれており、間違いなく「元気なまち」だと感じます。しかし、税収が増えることにより地方交付税は減額され、財政状況が劇的に改善するわけではありません。実際に新たな施策に使える金額は、昨年比で約7.6億円の減となります。そんな中、平成28年度予算では、**就学援助、こども医療費助成制度、地下鉄企画乗車券の見直し**と、子育て世帯、中でもギリギリの状況にある世帯に負担をお願いする施策があります。一方、苦しい予算配分の中で「こどもの貧困に関する調査」を行う予定であり、この結果を待って、改めて負担をお願いしなければならない部分を見極めるべきだと考えます。本市は「人と環境と調和のとれたアジアのリーダー都市」の実現を標榜しながら、子育て世帯、その中でも貧困世帯やその寸前で努力している市民にとって非常に苦しい「NEXT FUKUOKA」が待っているように思えると警鐘を鳴らしました。

市民の雇用環境改善、正規雇用の促進が最重要!

補足質疑[3月8日] 阿部 正剛(東区)



福岡市は、企業業績の改善や人口の増加等による市民税の増収を大きな要因として、3年連続で前年度を上回る予算案となりました。ただ、平成24年と平成26年との比較では、一社当りの法人市民税課税額10%増に対し、一人当りの特別徴収課税額(給与)は2%減となっており、企業の業績改善が市民生活にまで波及していない状況です。だからこそ、非正規雇用等の不安定な雇用環境の改善が重要だと強く訴え、立地交付金事業制度を見直し、市民の雇用創出、特に正規雇用の促進を図り、労働者の給与等の改善につなげていくという回答を得ました。また、外国からの来街者の増加や、2019年ラグビー・ワールドカップ地区予選の開催をはじめとした国際大会を控えている中、市民の更なるマナーアップが求められています。障がい者専用駐車場の適正利用や受動喫煙対策をはじめとする喫煙マナーアップ、自転車マナーアップなど、積極的に取り組むよう要望しました。

女性の健康寿命「72歳」を全国平均「74歳」へ

総会質疑[3月22日] 近藤 里美(南区)



直近の厚生労働省の公表によると、福岡市の男性は、健康寿命70.38歳、平均寿命79.84歳で、いずれもほぼ全国平均と同程度となっていますが、女性は健康寿命71.93歳、平均寿命86.71歳で、これは全国平均の健康寿命73.62歳、平均寿命86.30歳と比べると、健康寿命は2歳短く、健康ではない期間が約2年長く、政令市比較ではワースト2位となっています。超高齢化社会を見据えると、市の抛出も市民の負担も増加につながるため、この女性の健康ではない期間の問題は、早急に対応すべき重要な課題です。一方、なぜ全国平均よりも福岡市の女性の健康寿命が短く、しかも健康ではない期間が長いのか、その原因がはっきりとつかめていません。経済は回復基調にあり、人口も増え、「元気なまち福岡」と言われている中、真の意味での元気なまちになるために、早急に健康寿命の延伸に取り組む必要があります。特に、女性が弱点になっている原因を探り、しかるべき対策を講じるよう、強く要望しました。

住環境を守る、グリース・トラップの適切な維持管理を!

総会質疑[3月23日] 田中 丈太郎(博多区)



下水道は、安全で衛生的な生活をする上で大きな役割を果たしていますが、その機能を果たさなくなれば、悪臭や浸水、川の汚染等、住環境の悪化につながります。下水道への排水について、「グリース・トラップ」という設備を有している飲食店などがあります。この設備の適切な維持管理を怠ると、下水道管の閉塞という事態も考えられることから、その維持管理の仕方や廃棄方法について、福岡市の役割について質しました。「グリース・トラップ」の取り扱いについては、保健福祉局・環境局・道路下水道局が関係しますが、現在、相互の役割について連携がはかられていません。「グリース・トラップ」の重要性を再認識するとともに、「グリース・トラップ」を設置している飲食店などへの保健所の立ち入り検査時をとらえ、設備の不備については道路下水道局と、廃棄に関する不手際がある場合には、環境局と情報共有するといった目に見える連携を強く要望いたしました。

市民の負担増に見合う成果を求める!

議案討論[3月25日] 田中 しんすけ(中央区)



今議会に上程された平成28年度予算案、条例案、並びに関係諸議案に賛成する立場から討論を行いました。今回の予算案の特徴として、「広く市民の負担を和らげる一方で、新たな負担が生じる方もおられる」という点が挙げられます。

市営地下鉄に係る企画乗車券の見直しについては、利用者によっては負担が増し、役務員の負担も増えるような状況が想定されるため、その運用については今後しっかりと検討するよう求めました。子どもの通院医療費の助成範囲が小学6年生まで拡大されることは一歩前進ですが、一部個人負担が発生する年齢もある点については、今後、助成額の見直しを検討する際には優先的に対応されるよう要望しました。また、福岡市動植物園の魅力向上が図られる一方で、入園料が400円から600円に改定されます。今後実施する予定の「動植物園の魅力アップ・賑わいアップ事業」をしっかりと進め、入園者の増加に向けた努力を求めました。